



# NEWS

2009 No.222

9月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

## 08年度の整備売上、マイナス傾向の中で專業は増加

# ユーザーの節約志向、保有期間の長期化が後押し 顧客をしっかりと囲い込むことを今のうちに考えたい

整備売上高の推移に新車販売低迷や保有の長期化などの影響がはっきりと見て取れるようになりました。

市場環境はさらに厳しくなることが見込まれ、專業者にとって顧客管理の徹底など防衛策が必要になると思われます。

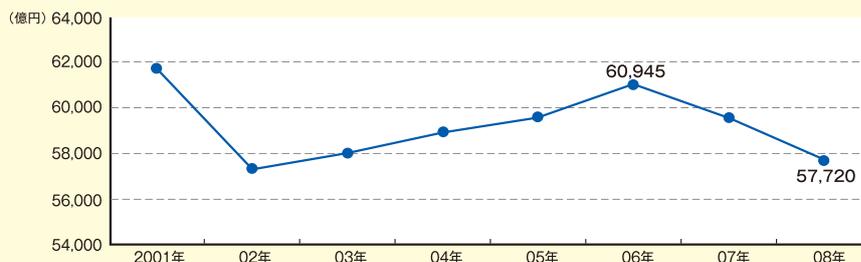
国土交通省がまとめた08年度の「自動車分解整備実態調査」で、08年度の総整備売上高は対前年比3.0%減の5兆7720億円となりました。06年度の6兆945億円から2年連続して総整備売上高は落ち込んでいます。

しかしその中で整備專業者の売上高は堅調で、08年度は同5.3%増の2兆2738億円でした。05年の2兆1051億円からじりじりと上昇を続けています。車体整備工場の認証取得などで專業工場数は前年より950工場増の5万5141工場になっているにもかかわらず、1工場当たりの売上高は伸びて、同3.5%増の4123万円となりました。

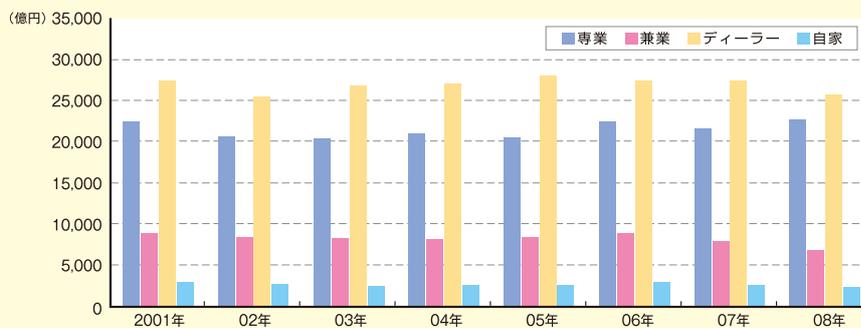
半面、ディーラーの08年度売上高は同6.5%減の2兆5585億円で、総売上高推移と同様に2年連続のマイナスでした。兼業の売上高は同13.3%減と大きく落ち込み、6932億円にとどまりました。それぞれ1工場当たり売上は、ディーラーが同6.5%減の1億5765万円、兼業は同15.1%減の4544万円となっています。

ディーラー工場数は前年に比べ2工場増えて1万6228工場です。新車販売低迷の長期化に伴い自動車メーカーは販売網を再編し、その結果、ディーラー各社も販売効率の見直し、拠点の統廃合を進めています。同時にディーラーは、新車販売後から次の車検までのアフターサービスをパッケージにした「メンテナンスパック」の販売に力を入れ、整備在庫車両の囲い込みを進めています。メンテナンスパック付保率の高いディーラーは、登録車でも軽自動車でも9割前後になっています。また各社、こうした付保率の高いディーラーを目標に自社の付保率を高める努力をしています。その結果、

総整備売上高の推移



部門別整備売上高の推移



新車販売時のメンテナンスパック契約以外の整備在庫が少なくなります。

ちなみに登録車、軽自動車を合わせた新車販売は07年度4.1%減、08年度5.3%減と2年連続でマイナスになっています。メンテナンスパック依存を高めた分、整備売上面の厳しさは続きそうです。作業内容別の売上を見ても車検9.7%減、定期点検5.0%減、事故整備2.1%減など全項目で落ち込んでいます。

また兼業は、08年は前年より315工場増え、1万5255工場。中古車販売との兼業は中古車の市場動向に左右される一方、新規参入組は値段などに左右される流動性の高いユーザー層を対象にしなければならず売上は低迷している状況といえます。

一方、專業の整備売上増は、保有の長期化に伴う整備需要増が後押ししていると考えられます。作業内容別で車検が1.4%増、定期点検が5.3%増、事故車整備は28.5%増となっており、不況下の節約志向の強まりは追い風になっています。

気にかかることは、ディーラーが当初3年間で始めたメンテナンスパックを5年、7年と長期化させていることです。新車が売れない分、サービス売上を高めようとしており、それはユーザーの囲い込みを強めることとなります。これに対抗するには「環境整備」などを進め、既存の顧客をしっかりとフォローすることです。NGP協同組合もリサイクル部品で環境整備のお手伝いをいたします。

進む軽自動車の普及、2世帯に1台の保有も目前

# 09年3月末は 100世帯当たり49.5台



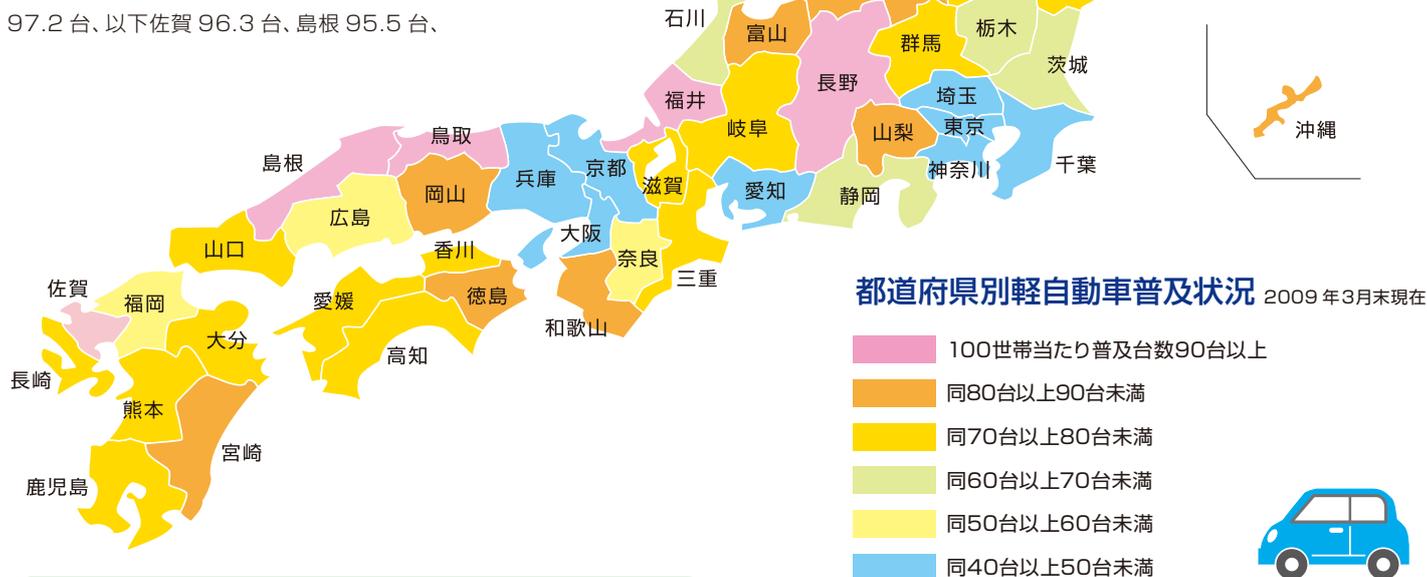
軽自動車の普及が進んでいます。全国軽自動車協会連合会の集計によると、09年3月末に100世帯当たり49.5台で、昨年3月末の48.7台から0.8台普及が進み、2世帯に1台の割合で軽自動車を保有している状況に限りなく近づいています。

ベースの数字は、総務省の「住民基本台数世帯数」（09年3月末、約5287万世帯）と国土交通省の「自動車保有車両」の軽自動車保有台数（同、約2617万台）です。

地域別にみると、100世帯当たり50台を切るのは、10.9台の東京を筆頭に神奈川、大阪、埼玉、千葉、北海道、京都、兵庫、愛知の9都道府県だけです。それ以外の38県は50台を上回っています。もっとも普及が進んでいるのは鳥取県で100台当たり97.2台、以下佐賀96.3台、島根95.5台、

長野94.9台、山形94.6台と続き、15位の秋田まで昨年と順位は変わりません。

軽自動車は、2000年3月末の普及台数は100世帯当たり40.8台に過ぎませんでしたが、その後快進撃を続けて50台の大台目前になりました。現在は政府支援策の影響でハイブリッド車に押されて少し影が薄くなった軽自動車ですが、さらに進む高齢化などの状況を考えると、今後もさらに普及するよう思われます。大事なビジネスチャンスを与えてくれそうです。



## 節約志向を強める軽ユーザー

軽自動車は維持費の低いことが大きな魅力で、最近は経済性を重視して普通車から乗り換える軽ユーザーもいるほどです。そして「なるべく長く乗りたい」と考えるようです。

2008年3月に日本自動車工業会がまとめた「軽自動車の使用実態調査報告書」では、軽ユーザーの世帯収入は平均522万円で、399万円以下と答えた軽ユーザーが30%となりました。男性サラリーマンの平均年収が約540万円ですから、比較的低所得者層が通勤や通学、

買い物などの日常の足として軽自動車を使っている、と言えます。

また、親元で暮らす独身男性が軽自動車を新規に購入することで、軽自動車ユーザーの平均年齢を引き下げた半面、60歳以上のユーザーも約2割に達していました。60歳以上のユーザーの世帯収入の平均値は388万円となっており、「生活にゆとりがなくなってきた」と感じる比率が高いのだそうです。

一方、軽自動車の使用年数は平均7年。全体の55%が6年以上使用しており、

11年以上使用している軽ユーザーも10%いました。

保有の長期化は整備業者の出番を増やします。2世帯に1台は軽自動車を持つ時代。地域によっては8割、9割の世帯が軽自動車を保有していることとなります。そして「長く乗れば乗るほど、ディーラーに車検は出しにくい」という軽ユーザーの声も聞こえます。節約志向を強め、長く乗りたい軽ユーザーをどう取り込むか、大きなカギになることは間違いのないようです。

自動車リサイクル法見直しにインパクトを与えた大臣陳情

# 使用済み自動車ガイドラインや3Rの高度化を推進

自動車リサイクル法の見直しが大詰めを迎えています。8月6日に開かれた産業構造審議会・中央環境審議会の合同会議で答申取りまとめに向けた論点整理が示され、そこにNGP日本自動車リサイクル事業協同組合（大橋岳彦理事長）が今年4月、他団体とともに斉藤鉄夫環境大臣などへ陳情した内容のいくつか盛り込まれ、見直しに向けて動き出すことになりました。

要望が具体化したもののひとつが、「使用済み自動車判別ガイドライン」の策定です。



大詰め産構審・中環審合同会議。陳情内容が取りまとめの中に盛り込まれている

ガイドラインについては使用済み自動車の流通構造が大きく変わったことにもなっており、中古車と使用済み自動車を区別する基準が必要だということで、強く要望していたものです。ガイドライン策定のためのワーキンググループ（WG）が秋に作られ、答案とりまとめと並行して策定作業が進められます。

先に審議会合同会議は判別ガイドラインの客観的指標として、主要部品の欠損状況、自動車の損傷状況、車齢・走行距離の自動車の使用状態、自動車の市場評価、オークション等の取り扱い状況などを指標として示しており、これらを基に論議を深めて判断基準を示すこととなります。さらにオートオークション場に対しても中古車と使用済み自動車流通を区別するよう要請するようです。

このほか、国家資源戦略の見直しやリサイクル自動車部品の利用拡大などについても、「3Rの高度化」ということで、論点整理の中に盛り込まれています。とくにレアメタル回収は重要な国家資源戦略になります。経済産



NPO世界とともに大臣陳情を行ったNGP協同組合大橋理事長、青木会長ら幹部

業省なども対応策を詰めています。高度化ということで、解体段階で有効な手法を誘導するなどの支援策が検討されることになりました。

このように自動車リサイクル法の見直しに関して影響を与えた斉藤環境大臣への陳情は、NGP協同組合とともに東日本自動車解体処理協同組合（坪千代志理事長）、NPO法人全日本自動車リサイクル事業連合（天明茂理事長）などが加わり、NPO法人世界（中田選理理事長）とともに行ったものです。

専門紙誌との記者懇談会を開催

# NGPシステム新機能、業界初の画像検査システムについて情報発信

NGP協同組合は8月28日、東京都港区のホテルで専門紙誌記者との懇談会を開催しました。記者懇談会は専門紙誌記者との情報交換を通じてNGP協同組合の活動について理解を深めてもらうこと、業界各方面に対する情報発信を行うことを目的としたもので、大橋岳彦理事長、青木勝幸会長、田中清、島野敬副理事長らの幹部が出席しました。

席上、NGP協同組合は、NGPシステムに「ネットオークション連携システム」「クレーム報告情報共有一元管理システム」の新機能を加えること、また自動車部品のコンピューター画像検査システムを福岡工業大学と共同で開発を進めていることを発表しました。

NGPシステムに加わる新機能は、ひとつは「ノークレーム、ノーリターン」が常識となっているネットオークションで、NGPと同じ保証のついたリサイクル部品提供を実現するためのシステムです。もう一方は、クレーム報告を電子化してNGPシステム内で共有、一元管理するシステムで、これにより同じ間違いを繰り返すことなく、お客様により良いサービスを提供することを目指します。

画像検査システムは、画像処理技術を使って外装部品のキズやへこみなどの形状を自動的に計測・検出するシステムです。現在は共同開発している最中で、完成すると外装部品の形状評価が客観的に行えるようになり、お客様にも外装部品の程度がわか



記者懇談会であいさつする大橋理事長

りやすくなります。詳細は10月26日に予定している総会で組合員向けのプレゼンテーションを行います。その後、テスト運用を経て利用を開始することになりますので、ご期待ください。

## NGP 今月のCO2削減量

NGP平成21年7月: **8,194t** (全12団体計: 14,031t)

1月からの累計: **53,792t** (全12団体計: 97,313t)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



## 第 18 回中級研修会開催

### NGPの「最高の仲間」と出会えた5日間

第 18 回中級研修会が 8 月 3～7 日の 5 日間、静岡県裾野市のあいおい東富士研修センターで開かれました。参加者は生産 9 人、フロント 11 人、営業 1 人の計 21 人。トラブルシューティングも含めた技術研修、それぞれの分野の専門研修およびリーダーシップマネージメントの中身の濃い研修に集中して取り組みました。研修の合間を縫って挨拶訓練も行います。気合いのこもった受講者に「これまでで最高」と岩井悟朗教育委員長も太鼓判を押したほど、充実した中級研修会になりました。

むつパーツの能渡洋介さんは「この研修会



昼は技術、夜は各専門分野の研修と短期間に集中して取り組む

で一番感じたのは、みんなが心を一つにして同じモチベーションで取り組めば、ものすごい力が生まれるということです。今までいろいろな研修会に参加してきましたが、ここまで大きな力を感じたのは初めてです」と互いに切磋琢磨した研修会を振り返ります。

かけがえのない仲間と出会えたと言う茨城オートパーツセンターの村田康さんは「通常の業務に戻った時、NGP の同志として自分と同じ思いでミッションを達成するために、それぞれのフィールドで戦い続けていることだろうと思うと、自分に対する大きな力となります。同時に今後の NGP グループをけん引していきたいという衝動に心が熱くなりました」と言っています。

「売上目標を達成するために予測される点数の倍の点数を登録する。商品回転率を上げるために自在庫を必ず見直す」(大友自動車工業、橋本直也さん)、「オンライン売上目標を今年度中に達成します。売上達成のためのシナリオを作成し行動します」(吉村エコパーツ、和田充弘さん)、「フロントリーダーとして販売に全力を上げ、売上目標を達成します。現在の社内の体質改善を行



職場のリーダーとして技量を磨くリーダーシップマネージメント



基本となる挨拶訓練、全員の心をひとつにするのがポイントになる

い、業務がスムーズにできるよう指揮します」(島根オートリサイクルセンター、池淵純也さん)と、参加者は決意も新たに明確な目標を掲げて歩き出しました。

## リサイクル部品を使った「リボーン・カーリース」スタート 整備時の代車などに割安価格で提供

山形県酒田市の永田プロダクツ(永田則男社長)は、中・低年式の車両をリースカーとして再利用する新たな試み、「リボーン・カーリース」を始めました。解体工程に回る車は部品を取って有効利用していますが、車のままで再利用できれば、シュレッターダストは全く出ません。「リデュース(ゴミの削減)」という 3R の原点ともいえる取り組みになります。

リボーン・カーリースは、レンタカーとカーリースの中間で、1 カ月単位の定額制のメンテナンス・リースでリフレッシュした

車両をリースします。商品構成は月 1 万 5 千円の「安心ライフ」、2 万 5 千円の「快適ライフ」、3 万 3 千円の「満足ライフ」を基本としており、「安心ライフ」は日額 500 円のワン・コインとなります。

外觀整備には、NGP 協同組合のリサイクル部品を利用し、低コストの仕上げを行っています。

チャイルドシートやロッドホルダーなど使い方に応じたオプションもあれば、エアロパーツも在庫があれば対応可能です。取引先の整備事業者が、代車に使うために契約して



リサイクル部品を利用したリボーン・カーリース、ノウハウも教えます

くれたそうです。セカンドカー需要や単身赴任者、あるいは長期出張時の足代わりなど、多様なニーズにこの格安リース車が注目されています。

## 訃報

8月31日、株式会社多田自動車商会(兵庫県三木市)、平田武士取締役社長のご母堂、平田雪子(ひらた・ゆきこ)様がお逝去されました。享年 84 歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
<http://www.ngp.gr.jp>

### 株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201